

『三里塚のイカロス』公開記念

『日本解放戦線・三里塚の夏』を撮った
伝説のカメラマン、
大津幸四郎の遺作として
執念の一作を
アンコール公開!

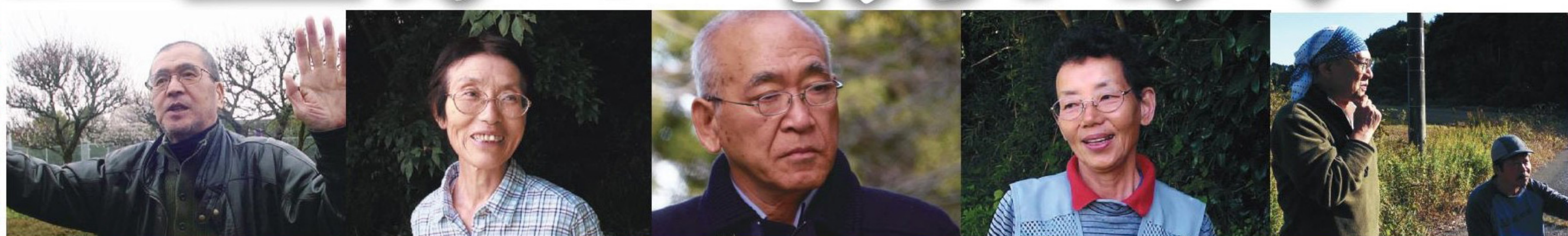


監督・撮影・大津幸四郎 監督・編集・代島治彦
音楽・大友良英 朗読・吉行和子、井浦新

2017年9月18日(月・祝)より連日13:00~上映
シアター・イメージフォーラム

三里塚に生きる 三里塚のイカロス

代島治彦監督最新作



三里塚の農民とともに
国家権力と闘った若者たちの
誰にも語らなかった
“あの時代”と
“その後の50年”の記憶。

製作・監督・編集◎代島治彦 撮影◎加藤孝信
音楽◎大友良英 写真◎北井一夫

2017年9月9日(土)より
連日15:30&18:30~上映
シアター・イメージフォーラム



『三里塚のイカロス』公開記念 ■ 小川紳介没後25周年
全9作品・全作品16ミリ上映

フィルム提供・協力:アテネ・フランセ文化センター、武蔵大学



2017年9月9日(土) — 9月17日(日)
連日13:00~上映
シアター・イメージフォーラム

『日本解放戦線・三里塚の夏』

ドキュメンタリーの大宇宙

小川プロダクション・三里塚とあの時代1967-1973

- 上 『日本解放戦線・三里塚の夏』(1968)
- 映 『日本解放戦線・三里塚』(1970)
- 作 『三里塚・第三次強制測量阻止闘争』(1970)
- 品 『三里塚・第二砦の人々』(1971)
- 『三里塚・岩山に鉄塔が出来た』(1972)
- 『三里塚・辺田部落』(1973)
- 『圧殺の森・高崎経済大学闘争の記録』(1967)
- 『現認報告書 羽田闘争の記録』(1967)
- 『パルチザン前史』(1969)



『日本解放戦線・三里塚』

サンリヅカと“あの時代”

サンリヅカと“あの時代”

9.9(土)―9.17(日)

ドキュメンタリーの巨人・小川紳介と小川プロダクションが記録した三里塚とあの時代。
『三里塚のイカロス』公開を記念し、ニッポン・ドキュメンタリー史の記念碑的作品群を連日上映!



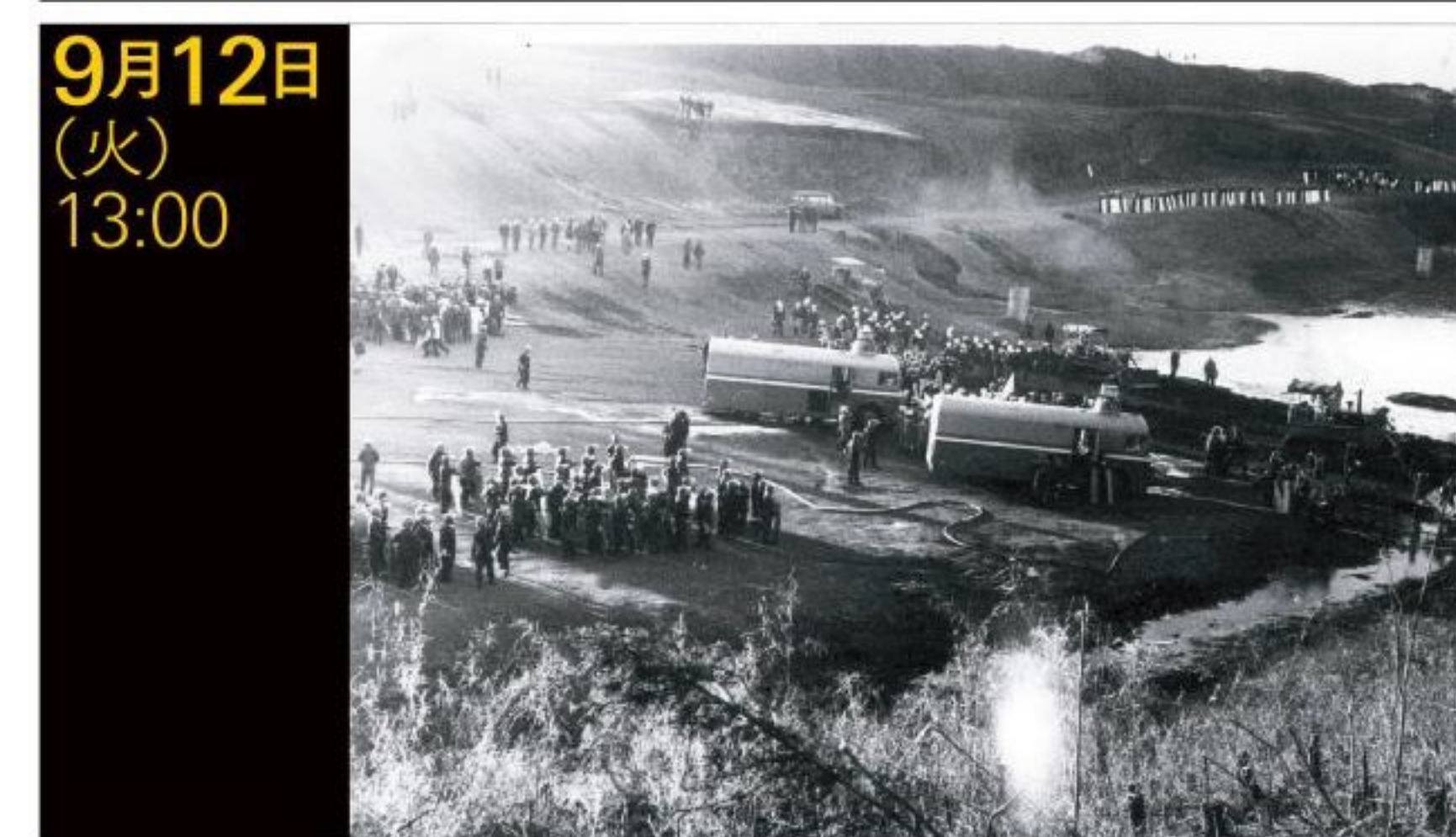
9月9日(土) 13:00
『日本解放戦線・三里塚の夏』
Summer in Narita
監督◎小川紳介 撮影◎大津幸四郎・田村正毅 録音◎久保田幸雄 モノクロ/16ミリ/108分/1968年
■1968年4月から7月、条件付きで土地売却に同意した農家の土地立ち入り調査をする空港公団職員と護衛の機動隊、それを阻止しようとする農民・学生を「三里塚映画班」として反対農民側についた小川プロがとらえた記録。「三里塚」シリーズの第1作。



9月10日(日) 13:00
『日本解放戦線・三里塚』
Winter in Narita
監督◎小川紳介 撮影◎田村正毅 カラー/16ミリ/141分/1970年 ☆日本映画監督協会新人監督賞
■四年にわたる空港建設反対の闘いは、困難な状況を迎えていた。激しくなる公団による懐柔や切り崩しは、反対派の農民たちの人間関係を崩壊させ、農民自身をあぶりだす。見える敵だけではない、反対運動の真の敵とは何かを真正面から捉えたドキュメンタリー。



9月11日(月) 13:00
『三里塚・第三次強制測量阻止闘争』
The Three-Days War in Narita
監督◎小川紳介 撮影◎田村正毅 白黒/16ミリ/50分/1970年
■警察と機動隊に警護された空港公団の強制測量を阻止しようとする農民たちの闘いを闘争の現場に徹しきって撮影。ビニール袋の「糞尿弾」を武器に抵抗する農民たち。その抵抗の激しさに公団は1週間の測量の予定を3日間で切り上げざるを得なくなる。



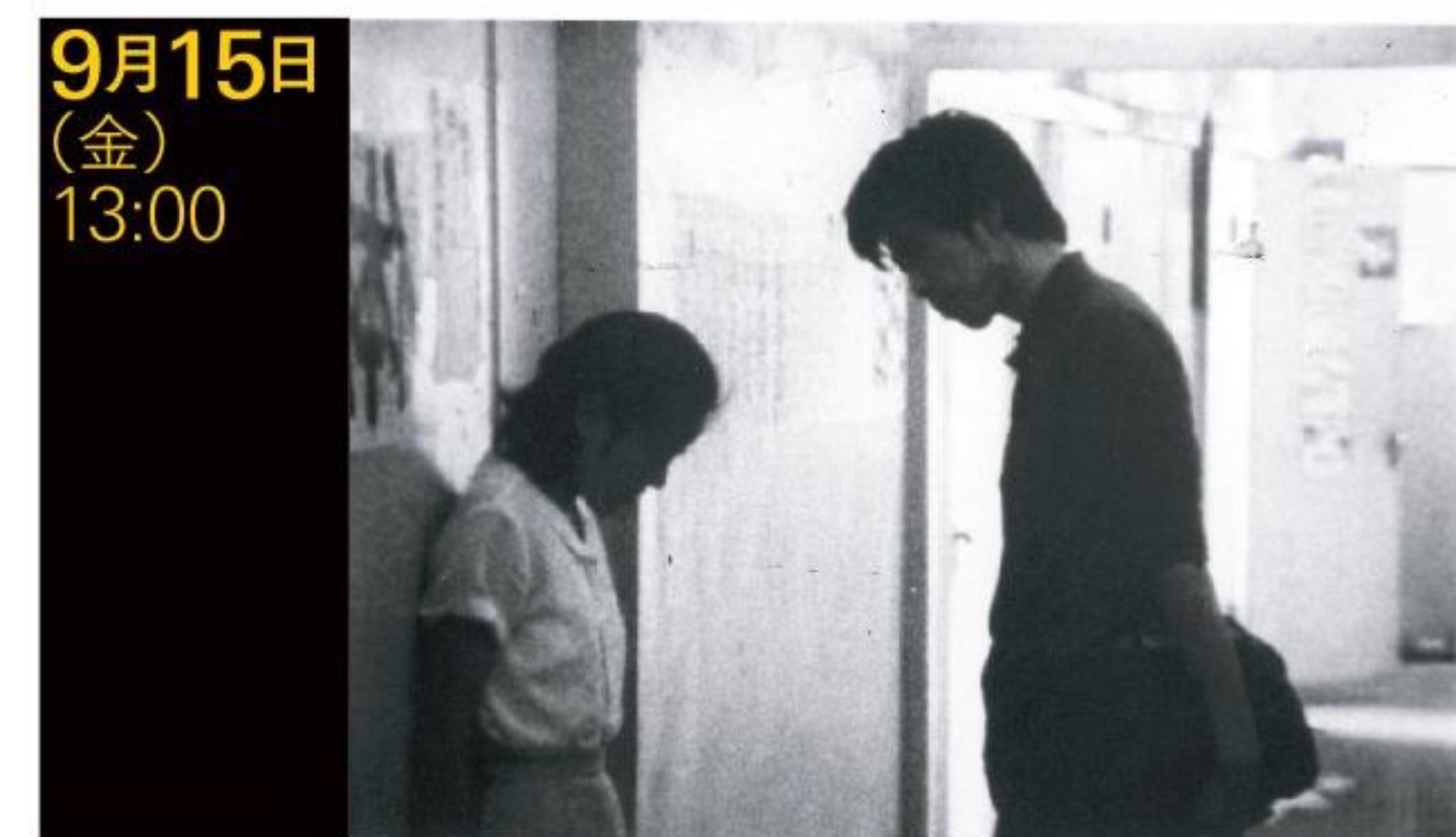
9月12日(火) 13:00
『三里塚・第二砦の人々』
Narita: Peasants of the Second Fortress
監督◎小川紳介 撮影◎田村正毅 白黒/16ミリ/143分/1971年 ☆マンハイム映画祭受賞
■シリーズの核となる傑作。機動隊を引き連れ強制代執行を行おうとする国と公団に対し、農民側は砦を築き、投石、竹槍、火炎瓶で応戦。鎖で自らの体を木にくくりつけ、一歩も動かない農婦。スクラムを組む人々。カメラは砦に密着して一ヶ月に及ぶ闘いを記録した。



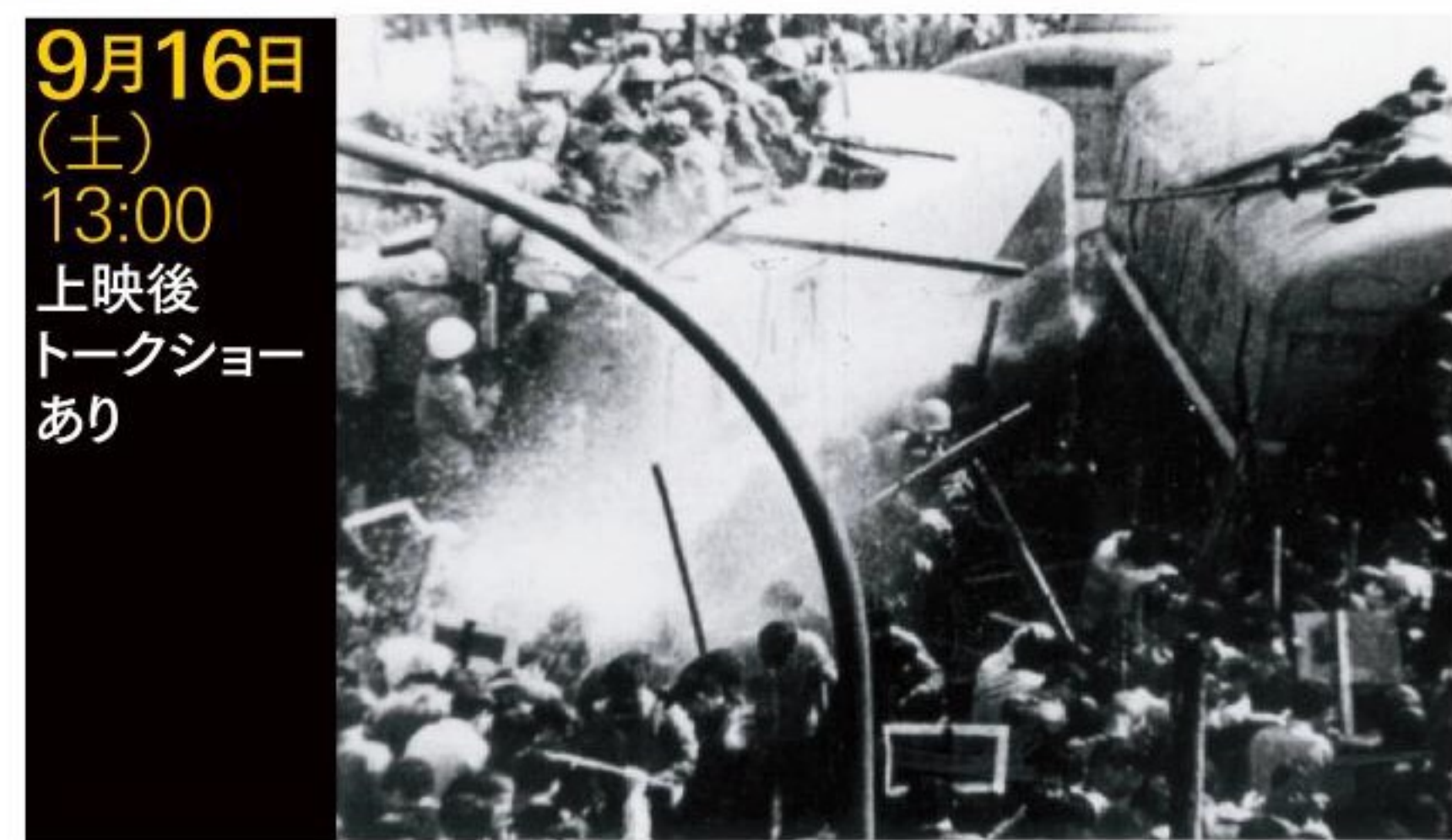
9月13日(水) 13:00
『三里塚・岩山に鉄塔が出来た』
Narita: The Building of the Iwayama Tower
監督◎小川紳介 撮影◎田村正毅 白黒/16ミリ/85分/1972年
■前作『第二砦の人々』の第二次強制代執行の後、1972年2月、反対同盟は滑走路予定地に離着陸を阻止する鉄塔の建設を開始。農民側を支援すべく全国から集ったトビ職や学生たちの手による工事の様子をカメラが記録。3月、60.5メートルの鉄塔が完成する。



9月14日(木) 13:00
『三里塚・辺田部落』
Narita: Heta Village
監督◎小川紳介 撮影◎田村正毅 録音◎久保田幸雄 白黒/16ミリ/146分/1973年
■1971年、闘争の途半ば、22歳の若さで自死した三里塚青年行動隊・三ノ宮文男が生まれ育った辺田部落を描く。それまでの闘争映画とは異なり、徹底した長回し撮影で土地の時間の層を現出させ、国際的に評価された。小川が稲作りに傾斜することになった重要作。



9月15日(金) 13:00
『圧殺の森・高崎経済大学闘争の記録』
The Oppressed Students
演出◎小川紳介 撮影◎大津幸四郎 録音◎久保田幸雄 白黒/105分/1967年
■1964年に岩波映画製作所との契約を解消した小川が67年に発表。当事者たちの中に入り込み、彼らと同じ視点から描く作風を確立した記念碑的作品。裏口入学が問題となり、学内にある学生ホールを学生たちが占拠。当時の学生闘争の原形が記録されている。



9月16日(土) 13:00
『現認報告書 羽田闘争の記録』
A Report from Haneda
演出◎小川紳介 撮影◎大津幸四郎 録音◎久保田幸雄 白黒/16ミリ/58分/1967年
■1967年10月8日、羽田。日本がアメリカのベトナム戦争を支援することに反対した全学連は、佐藤栄作首相のベトナム訪問を阻止しようと、ヘルメットをかぶりゲバ棒で機動隊と激しく衝突。その闘いの中で死亡した京大生の山崎博昭の死の真相を迫りかける。



9月17日(日) 13:00
『パルチザン前史』
Pre-Partizan
監督◎土本典昭・堤雅雄 撮影◎大津幸四郎・一之瀬正史 録音◎久保田幸雄 編集◎土本典昭・松本武頭 モノクロ/16ミリ/120分/1969年/120分
■「日本のゲバラ」と呼ばれた革命家、京大助手・滝田修の闘いを1968年の京大闘争を中心に追った記録。撮られる側との信頼関係に基づく至近距離でとらえた小川プロの伝説的作品で、後年、ドキュメンタリー界の巨星となる土本典昭が監督にあっている。

【小川紳介と小川プロ】1967年に小川紳介(1935-1992)は、小川プロダクションを設立。三里塚での新東京国際空港(現在の成田空港)建設反対闘争の取材を開始し、68年、『日本解放戦線・三里塚の夏』を発表。以後、三里塚農民と生活を共にしながら、「三里塚」シリーズを制作。70年代後半には、小川はスタッフと共に山形県上山市牧野に移住し、山形国際ドキュメンタリー映画祭創設

の礎となった。その後、『ニッポン国古屋敷村』『1000年刻みの日時計―牧野村物語』などの傑作を遺し、92年死去。享年56歳。その巨大な作品群は、今日も世界の映画人に多くの影響を与えている。本上映では『三里塚のイカロス』公開を記念し、小川プロが記録した三里塚とあの時代の貴重な作品の数々をすべて16ミリで上映します。

大津幸四郎と共に三里塚農民の現在を撮った姉妹編『三里塚に生きる』と農民と共に闘った若者たちの人生を描く新作『三里塚のイカロス』を同時上映。代島治彦監督「三里塚」二部作を飛行機の轟音響くスクリーンでぜひご覧ください。

9.18(月・祝)よりアンコール公開 『三里塚に生きる』 The Wages of Resistance: Narita Stories



監督・撮影◎大津幸四郎 監督・編集◎代島治彦 朗読◎吉行和子、井浦新 音楽◎大友良英 写真◎北井一夫 プロデューサー◎赤松立太・代島治彦 企画・製作◎三里塚に生きる製作委員会 カラー・白黒/DCP/140分/2014年/英字幕付き
■1960年代にはじまった成田空港建設反対闘争を、当事者である成田市三里塚の人々の証言から描いたドキュメンタリー。本作が遺作となった大津幸四郎カメラマンが、『日本解放戦線 三里塚の夏』(1968)以来45年を経て三里塚の農民にカメラを向け撮影し、共同監督を努めた。現在の三里塚の人々の姿から、空港闘争とは何だったのか、国家権力に振り回されてきた人々のくらしや考えが静かに浮かび上がる。闘争の過程で亡くなった二人の死者、自宅と田畑を強制収用された大木よねが残した「闘争宣言」を吉行和子が、22歳の若さで自死した三里塚青年行動隊・三ノ宮文男の遺書を井浦新が朗読し、死した者の心を現在へ口承している。
☆2014年日本映画ペンクラブ文化映画部門第2位 ☆2014年「キネマ旬報」文化映画ベストテン第4位 ☆2014年「映画芸術」日本映画ベストテン第3位



【大津幸四郎】ドキュメンタリー界の伝説的カメラマン。岩波映画製作所を経て、小川紳介と組んで『圧殺の森』や『日本解放戦線 三里塚の夏』、土本典昭監督の『パルチザン前史』といった傑作を撮影。土本監督の『水俣シリーズ』の撮影監督もつとめた。その他、黒木和雄、アレクサンドル・ソクーロフ、佐藤真、セミヨン・アラヴィッチといった鬼才と共に劇映画まで活躍を広げ、革新的な作品を生み出す。
【代島治彦】1992年に沖縄を舞台にしたオムニバス劇映画『パインナップル・ツアーズ』を製作。主な作品に『まなざしの旅 土本典昭と大津幸四郎』(2010年/監督・編集)、『オロ』(2012年/製作・編集)、映像作品に『日本のアウトサイダーアート』(全10巻、紀伊國屋書店)などがある。近作は音楽ドキュメンタリー『まるでいつもの夜みたいだ〜高田渡 東京ラストライブ〜』。

9.9(土)よりロードショー 『三里塚のイカロス』 The Fall of Icarus : Narita Stories



製作・監督・編集◎代島治彦 撮影◎加藤孝信 音楽:大友良英 写真◎北井一夫 録音◎滝澤修 制作:スコブル工房 企画・製作◎三里塚のイカロス製作委員会 配給◎ムヴィオラ カラー・白黒/DCP/138分/2017年/英字幕付き
■成田空港建設に反対し、抵抗運動を開始した農民たちと共に闘うために全国から若者たちが集まった。姉妹編『三里塚に生きる』が国家と闘った農民を描いたのに対し、本作は農民とともに闘った若者たちの人生を描く。登場するのは、三里塚闘争の責任者という立場にあった者、農民と結婚した者、当時高校生だった活動員など。これまで誰にも語らなかつた“あの時代”と“その後の50年”の記憶を語る。世界中が「政治の季節」に燃え上がるようだった“あの時代”。だが、それは、苦い結末を迎える。若者たちは墜落するイカロスだったのだろうか。中核派政治局員として1981年から2006年まで25年間三里塚現地責任者を務めた岸宏一は、本作完成後、今年3月26日、谷川岳で遭難。この映画が彼の遺言となった。
☆第18回チョンジュ国際映画祭正式招待作品



サンリヅカと“あの時代” ■各回入替制 ■『生きる』『イカロス』は英字幕付き。

9.9(土)~9.17(日) = 小川プロと『三里塚のイカロス』		
13:00 小川プロ作品	15:30 『イカロス』	18:30 『イカロス』
*小川プロの各日の作品名は各作品解説を参照ください。		

9.18(月・祝)より終映未定 = 『三里塚に生きる』と『三里塚のイカロス』		
13:00 『生きる』	15:30 『イカロス』	18:30 『イカロス』

[シアター] イメージフォーラム
03-5766-0114
www.imageforum.co.jp
自由席・定員入替制/整理券

イメージフォーラム
JR 渋谷駅 徒歩8分 宮坂上り青山通り 表参道方面一つ目の信号右入る

【小川プロ】当日料金◎一般1,500円 学生・シニア1,200円 会員1,100円
【三里塚に生きる&三里塚のイカロス】
当日料金◎一般1,800円 学生・シニア1,200円 会員1,100円
◎お得なりピーター 300円割引
本チラシ掲載作品の半券を窓口で提示いただくと、当日一般料金を300円割引。
*小川プロの半券提示で2作目の小川プロ作品は一般1,500円⇒1,200円
*『三里塚に生きる』の半券提示で『三里塚のイカロス』は一般1,800円⇒1,500円